

fam.s

ファミス通信 No.46
friends of art museum, saitama



The 10th anniversary!

北浦和公園のカプセルが10周年をむかえました!

「中銀カプセルタワービル」 カプセルを体感!



北浦和公園彫刻広場にある住宅カプセル FAMS広報撮影



北浦和公園彫刻広場にあるカプセル内部

北浦和公園の彫刻広場には、直方体の白い箱がひとつ、ぽつんと置かれています。この白い箱は、「中銀（なかぎん）カプセルタワービル」（1972年竣工 東京都中央区銀座）のモデルルームとして、長年ビルの1階に置かれていました。

「中銀カプセルタワービル」は、建築家黒川紀章氏の設計によるもので、世界で初めて実用化された直方体のカプセルの集合住宅です。今から10年ほど前、六本木の森美術館で開催された「メタボリズムの未来都市展」(2011.9.17～2012.1.15)にあわせて、モデルルームとして使われていたカプセルは、外壁も内壁も洗浄し、きれいに再塗装をされ、さらに内装もオリジナルに近づけて展示されました。当館は黒川氏が設計した最初の美術館というつながりにより、カプセルは会期終了の翌日、早朝に搬送されてきました。野外常設展示の仲間入りをしたカプセルは、外からの見学はできるのですが、残念ながら中に入ることはできません。でも、中に入りたい。体感できるチャンスはないだろうか!と思いつき、「中銀カプセルタワービル」の見学ツアーを探してみることにしました。

見学ツアーに参加!

案内をしてくださったのは、「中銀カプセルタワービル保存・再生プロジェクト」代表の前田達之さん。前田さんは、通勤でこの付近を通っていた折、たまたまカプセルの販売の広告を目にして衝動的にカプセルを購入されたそうです。購入後、ご自身でカプセルの修理に着手。それまでDIYの経験も無かったのに、空いている時間を利用してながらカプセルの修理を重ね、今や15個のカプセルを所有するまでに!すっかりカプセルの魅力に取り付かれてしまった方です。

見学ツアーの参加人数は5名。これは、利用するエレベーター（三菱エレベーター当時のまま）の定員が6名だから。1階の入口に集まった参加者は、前田さんと早速タワー内へ。今も現役のエレベーターでA棟の12階へ上がり、B棟との連絡デッキに出ると、カプセルたちの屋根を見下ろすことに。手すりはあるものの、一瞬ドキリとしました。



中銀カプセルタワービル (1972) FAMS広報撮影

「1972年に竣工した黒川紀章の設計した建築です。カプセルの数は140。カプセルは下から順番にA棟・B棟のシャフトに取りつけられました。本来ならば25年ごとに新しいカプセルと交換の予定でしたが、カプセルとの間が狭くてカプセルを動かすことのできる隙間がないのです。」
「竣工当時は、都心に位置しながら、快適な生活機能、ホテル機能、オフィス機能を兼ね備えた画期的なビジネスカプセルでしたが、現在は長屋的な雰囲気、住人同士が知恵を出し合い工夫しながら、助け合っています。」

エレベーターの周りぐるりと囲むらせん状の階段を降りて、9階の見学用のカプセルへ移動。このカプセルはブルー系のビジネスタイプで、当館所蔵のカプセルとほぼ同じ仕様でした。カプセルに入ると、まず目を引くのは大きな丸い窓。そして、高速道路に近いにもかかわらず、とても静かな室内。「この部屋は高速道路に面していますので、防音もかねて二重の窓になっています。全てのカプセルの窓は開けることはできません。内部の装置の組み合わせや室内カラーの選択、特注も可能で、カプセルのオーナーが自由にセレクトすることができました。また、グレードも3段階あり、最上級のスーパーデラックスタイプにはカシオの卓上電算機付きでした。当時、計算機が一番高額な装備品だったそうです。」

バスルームユニットは曲面を利用した柔らかなフォルムで、鏡、石けん入れ、小物入れなどのデザインは「円」を基調にデザインされたもの。

「カプセルの内装はヨットの船内を製造していたメーカーに、フレーム部分は鉄道車両やコンテナの製造メーカーに依頼をしたそうです。工場で90%くらいまで仕上げて、トレーラートラックで東京まで輸送されました。」

前田さんの説明を聞きながら、カプセル内の撮影や、直径130cmもある大きな窓から見える外の景色を楽しみました。10㎡のカプセルは、思いのほか心地良く、まるで宇宙に居るかのような空間でした。

見学を終えて

一僕が今造ろうとしているものは、のちの世にね、「これが平成か!」と言って、どーんとそこに感動してくれて、「ああ、黒川の生きた時代はこうなんだ!」という、そういうものを造れるかどうかでしょう（「美と出会うー建築家黒川紀章 全身これ建築家」 2002（平成14）.8.31 NHK教育より）

見学ツアーでは、「これが昭和か!」を体感してきました。

黒川紀章氏が提唱された「メタボリズム（新陳代謝）」から生まれた中銀カプセルタワービル。その独創性を令和の時代に伝えていくプロジェクトがあることを、ツアーに参加して知りました。社会と環境の変化に合わせて新陳代謝をしたカプセルたちが、意外なカタチで街に現れるかもしれません。（A.T.）



「中銀カプセルスタイル」(草思社)
10㎡のカプセルをどのように工夫して使われているのか? 20戸のお宅拝見。

黒川紀章 (1934-2007)
愛知県名古屋に生まれる。京都大学建築学科卒業後、東京大学大学院に進み、丹下健三研究室に所属。1960年、26歳で菊竹清訓らとともに建築の理論「メタボリズム」を提唱。社会の変化や人口の成長に合わせて有機的に成長する都市や建築を提案した。1962年、黒川紀章建築都市設計事務所を設立。主な作品に、中銀カプセルタワービル、埼玉県立近代美術館、名古屋美術館、広島市現代美術館、国立新美術館、クアラルンプール新国際空港（マレーシア）などがある。



イタリアレストラン ペペロネ美術館

ペペロネ美術館
公式サイト



美術館に併設されたレストラン「ペペロネ」が開店 25 周年を迎えました。《ペペロネ》はイタリア語で「パプリカ」の意味なんですよ (^_^)

—シェフにお聞きしました—

●お店のコンセプトは？

「小さいお子様から大人の方まで幅広い年齢層の方に楽しんでもらえるように 20 種類ぐらいのメニューを用意しています。地域の野菜にこだわって浦和青果市場で仕入れています。また、企画展ごとに展覧会に関連したメニューをご用意しています。なかなかこれが思案のしどころで、苦労しています。(^▽^)」

●今年の春に公園側スペースを改装されましたね。

「小さいお子様のいるご家族でも楽しんでいただけるようにガーデンテラス風にリノベーションし、BBQ が出来るようにしました。人工芝を敷き詰めたり、レイアウトを考えたり、スタッフ全員で四苦八苦しました。」



- Dolce -



—「ペペロネ」の魅力—

北浦和の瀟洒な公園内にあり、美術館という非日常の空間も味わえるお店です。手軽に楽しめて、安心な地産野菜を豊富に使ったピザやパスタ。多くの方に親しまれているカレーも人気メニューの一つです。

また、食後やティータイムにはパティシエ自慢のケーキもお勧めです。店頭ではパティシエ手作りの「気ままなクッキー」が気ままな時に販売されています♪

大人気はお店自慢の玉ねぎのフォカッチャ。ランチメニューにもついてきますが、お持ち帰り用に切り分けて販売してくれるのが嬉しいですよ。

お子さま限定のドーナツセットもメニューに加わりました。大人も注文できるので公園で遊んだあと、親子でのティータイムに最適です！(N.K.)



☆ただ今、企画展「大・タイガー立石展」とコラボしたランチメニューも楽しめます♪ ▶▶▶

イタリアのミラノで13年間活動したタイガー立石。彼も食べたであろう、牛カツレツやボロネーゼ。日本人にも馴染みのあるイタリアの家庭料理をお楽しみください。是非、「ポー」なランチをどうぞ♪

*ランチには玉ねぎのフォカッチャ、サラダ、ドリンクが付いています。



※コロナウィルス感染拡大のため営業時間、定休日などはHPをご確認ください。 ※ファミス会員の方はお食事の際、会員証のご提示で10%割引になります。

おうち de ミュージアム はいかが？



Topic

芸術の秋。木々の紅葉や果物の実りを楽しむ秋は、旅行を兼ねた美術館訪問にもちょうどよい季節です。ところが、これまでふらりと訪ねることができた美術館や博物館でも、オンラインでの事前の予約が必要になるところが増えています。おうちで気軽に楽しめるアートブログや動画を活用してみませんか。

★アートテラー とに～の『ここにしかない美術室』のブログ

吉本興業のお笑い芸人だったとに～さんが、「美術をもっともっと身近なものに。もっともっと楽しいものに。もっともっと笑えるものに。」という思いを綴ったブログ。とに～さんは、数々の美術館での公式トークイベントのガイドやアートツアーの企画運営など、アートに関するさまざまな活動をしています。ブログでは、竣工したばかりのビル内のパブリックアートを取り上げるなど、とに～さんの注目しているアートはさらに広がっています。



<http://ameblo.jp/artony/>

★『青い日記帳』のブログ

アートブログの草分け的存在の「青い日記帳」。主宰のTakさん独自の視点による作品鑑賞のヒントや旬な情報をいち早く知ることができます。Takさんのポリシーは欠かさないように書き続けること！著書『いちばんやさしい美術鑑賞』は、展覧会の鑑賞の手助けになれば…という思いから執筆されたそうです。国内の美術館所蔵の作品に絞って鑑賞のポイントが掲載されているので、実際に作品を観に行くと、さらに理解が深まる一冊です！



<http://bluediary2.jugem.jp/>

★『ニコニコ美術館』

全国の美術館・博物館、芸術祭などの展覧会の会場内を、学芸員や専門家などによる解説付きでめぐる生放送番組です。通称『ニコ美』の特徴は、動画の画面上に視聴者のコメントがリアルタイムに、しかもとめどなく流れ続けていること。カメラで映し出された展示への驚きや素朴な質問などのコメントは、出演者と視聴者のつながりを生んで、わいわい楽しくアート鑑賞ができる場を作っています。熱のこもった解説に長時間になることも！



<https://ch.nicovideo.jp/niconicomuseum/>

所蔵作品の解説や、ギャラリートークの様子を配信している美術館の公式サイトも増えています。ぜひ、チェックしてみてください。(A.T.)

☆ブログとは、文章や画像などのコンテンツを日記のように時系列で投稿するホームページの種類のひとつ。正式な名称は「WebLog」。





武蔵野美術大学卒業生会
東京埼玉支部本展

2021年11月30日(火)~12月5日(日)
一般展示室 1

美術評論家、赤津侃先生を中心としたフォーラム開催、本学教授をつとめられた絹谷幸二先生や瀬島匠先生らの作品が賛助出品され、他大学の名誉教授の先生がたとも作品交流の予定。



「坂口安吾より「桜の森の満開の下」」

第24回凜の会展

2022年1月11日(火)~1月16日(日)
一般展示室 1,2,3,4

令和3年1月の24回展は、コロナ禍の為に中止致しました。今回は会員・会友も増え改めて大作を中心とした絵画・彫刻200点以上展示予定です。皆様のご来場をお待ちしています。



前回の会場風景

ヨシズミ トシオ個展
創作50周年記念 part- I
ありあるクリエイションズ藝術企画

2022年3月8日(火)~3月20日(日)
一般展示室 4

新・近作の油彩画、水墨画、銅版画、表現の可能性の展示。海外で開催されました国際版画トリエンナーレの受賞作品も併せて発表いたします。



前回の会場風景

第35回溪水会展

2022年4月5日(火)~4月10日(日)
一般展示室 4

いろんな分野の人達が集まった展覧会です。水彩画、油彩画、水墨画、墨彩画、パステル画、えんぴつ画、工芸品等、バラエティーに富んだ展覧会ですので、御来場の皆様には、楽しんでいただけたらと思います。



前回の会場風景

第25回 埼玉二科展

2022年5月3日(火)~5月8日(日)
一般展示室 1,2,3,4

25周年を迎える埼玉二科展は、創立以来、絵画・彫刻・デザイン作品の発表の場であり、例年80~90名の作家で続けてきている。また、会が主催する公募展に応募される県内在住作家の作品も展示している。



前回の会場風景 (デザイン部)

ここが見どころ!

表紙解説: 草間彌生の人と作品 Spot Light

草間彌生 (くさまやよい)

1929年(昭和4)長野県松本市一
タケミヤ画廊などで個展を開催した後、1957年に渡米し、ニューヨークを拠点に世界各地で意欲的に制作を行う。70年代半ばに日本に帰国。一貫して、網目や水玉などを集積、反復させる表現を探究している。

表紙作品

「スーツケース」

1966(昭和41)年
・スーツケース: スーツケース、アクリル絵の具
46.0×70.0×19.0cm
・脚立: 木製脚立、アクリル絵の具
252.0×57.0×155.0cm

草間は渡米後の50年代末から、網目や水玉を繰り返して描く大画面の絵画を発表して注目を集めます。60年代に入ると、これらの作品に見えるように、絵画で確立した自らの網目の様式を立体へと展開します。この2点は、ミラノでの個展にあわせて、草間が同地のルーチョ・フォンターナのアトリエに2か月間滞在して制作したものです。絵画から現実のモノの表面へと転移した無限の網目は、何の変哲もない道具を、生きものの鱗や皮膚を思わせるような、視覚的にも心理的にも強い印象の作品へと変容させています。日本からアメリカへ渡り、絵画制作からパフォーマンスまで多岐にわたる分野で時代を駆け抜けた草間が、60年代にヨーロッパで産み落とした貴重な作品といえるでしょう。

賛助会員名簿/私たちは美術館を応援しています (2021年10月1日現在)

■特別賛助会員

- | | | |
|------------|-----------|----------------|
| (株)ライ設計 | 浦和興産(株) | (株)エフエムナックファイブ |
| (株)ガロ | (有)埼玉画廊 | (株)埼玉りそな銀行 |
| 税理士法人さかえ会計 | (株)神住建 | セントラル自動車技研(株) |
| 全和会 秩父中央病院 | (株)テレビ埼玉 | DAY HAPPY |
| (有)二木屋 | 日本畜産興業(株) | (有)細井技研 |
| 松田産業(株) | 丸沼芸術の森 | (株)万世 |
| 武蔵野環境整備(株) | (株)武蔵野銀行 | (株)明成ペペロネ |
| メガソーラー機構 | | |

■法人賛助会員

- | | | |
|------------|-------------|--------------------|
| (有)ギャラリー藤井 | 群炎美術協会 埼玉支部 | 溪水会 |
| (株)コア | 工芸新樹会 | 埼玉二科会 |
| 埼玉二紀会 | CAFN協会 | (一社)新構造社 埼玉支部 |
| 全日本書道芸術院 | (有)とらや | (有)中村元 |
| ポーリアグループ | 見沼100年構想の会 | 武蔵野美術大学卒業生会 東京埼玉支部 |
| (株)雄文社 | 凜の会 | |

■個人賛助会員

- | | | | | |
|-------|--------|-------|--------|-------|
| 一瀬 謙輔 | 岡田 謙司 | 岡部 照夫 | 岡部 美代子 | 加藤 正宏 |
| 小松 弥生 | 清水 武司 | 高橋 碩子 | 滝沢 布沙 | 野口 真理 |
| 樋口 征子 | 廣澤 公太郎 | 丸山 晃 | 横尾 嘉子 | |

ファミス (fam.s) とは

About fam.s

ファミス (fam.s) とは、埼玉県立近代美術館友の会フレンドの愛称です。美術館を支援し、芸術文化の振興、心豊かな社会づくりに貢献することを目的に活動しています。

会員には様々な特典があり、入会は随時受け付けております。

詳しい内容については、美術館HP (<https://pref.spec.ed.jp/momas/>) もしくはフレンド事務局 (TEL048-824-0111) までお問い合わせください。



編集後記

一部の美術館や博物館でのトークイベントやギャラリートークが、少しずつ復活し始めています。予約制にしたり、Zoomを試してみたり、工夫をしながらすすめているようです。展覧会のさまざまな楽しみ方が増えそうです。(A.T.)

